

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回吉川市介護福祉推進協議会
開 催 日 時	令和5年6月20日(火) 午後7時00分から午後8時30分まで
開 催 場 所	吉川市役所301・302会議室
出席委員(者)氏名	保科寧子委員、戸張英男委員、馬場富美子委員、玉川洋子委員、 岩崎武司委員、秦英世委員、柳澤一之委員、峯健二委員、雨宮文範委員、 岡田良訓委員
欠席委員(者)氏名	相羽直人委員、長棟美幸委員、豊田洋一委員
担当課職員職氏名	健康長寿部部长 小林以津己 介護給付係長 関根奈津枝 長寿支援課長 山口剛介 高齢福祉係主任 野口英里子 課長補佐兼高齢福祉係長 石塚晶則 介護給付係主事 一ノ瀬優輝 課長補佐兼介護認定係 飯田智子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開会 2 議事 (1) 第8期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の実施状況の報告について (2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査および在宅介護実態調査からみる現状 (3) 吉川市高齢福祉サービスの見直しについて 3 その他 4 閉会 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	・令和5年度第1回吉川市介護福祉推進協議会 次第 (資料1) 第8期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の実施状況の報告について (資料2) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査および在宅介護実態調査からみる現状 (資料3) 吉川市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査および在宅介護実態調査報告書(未定稿) (資料4) 吉川市高齢福祉サービスの見直しについて (資料5) 参考資料：介護保険事業(支援)計画について
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	雨宮文範委員、岡田良訓委員
その他の必要事項	なし

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	1 開会 只今から、令和5年度第1回吉川市介護福祉推進協議会を開催する。 はじめに、保科会長よりあいさつをお願いします。
保科会長	(あいさつ)
事務局	(本日の会議資料の確認) 議事について、進行は保科会長をお願いします。
保科会長	出席委員は、13名中10名で過半数に達しており、会議が成立することを報告する。 議事録署名委員を雨宮文範委員、岡田良訓委員をお願いします。 吉川市市民参画条例により、本会議は公開となる。 (傍聴希望者の確認、傍聴希望者なし)
保科会長	2 議事 それでは議事に入る。 (1) 第8期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の実施状況の報告について事務局から説明を。
事務局	(資料1「第8期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の実施状況の報告について」説明。)
秦委員	管理指標の令和5年度計画値と実績値が示す内容を伺いたい。
事務局	計画値は令和5年度末までの計画数値、実績値は現段階で最新の数値である令和4年度末の実績値を記載している。
峯委員	管理指標は令和2年度と令和5年度が記載されている。本日の資料では令和3年度と令和4年度の実績が報告された。管理指標年度との関連性を伺いたい。
事務局	第8期計画を策定した年度が令和2年度であるため、令和2年度と計画期間最終年度の令和5年度を管理指標として記載しており、管理指標以外の項目については、直近の実績で比較できるよう令和3年度と令和4年度を記載しているものである。
峯委員	地域型介護予防教室実施自治会数と奨励金交付自治会数が一致していないが、実施自治会数のうち奨励金を受けている自治会は半数程度という、理解でよろしいか。
事務局	そのとおりである。奨励金交付要件は満たしていないが、実施している自治会があるため差が生じているものである。
岩崎副会長	次期計画において新型コロナウイルスの影響があると考える。次期計画値は生の数字を用いるのか、または状況を鑑み補正をするのか伺いたい。
事務局	計画値については、委員の皆さんのご意見を踏まえて、今後作成していきたいと考えている。第5類に移行後、コロナ前の日常が戻りつつある様子も見受けられ、このまま収束していくのか、また一部ぶり返すようなことがあるのか、状況を見定めながら、目標等を検討していきたい。
馬場委員	今年の3月に小規模多機能型居宅介護施設が開設された。この施設のデイサービスを利用する場合、当該施設のケアマネジャーに変えなければいけない制度がある。ケアマネジャーを変えることに抵抗を感じる方もいるため、ケアマネジャーを変えなく

事務局	<p>でも、利用できるよう検討ができないものか。今、人ファースト・人間ファーストと言われている中で、介護では心理的な部分が大きなウエイトを占めていると考える、せっかく良い施設があるのにうまくできていない現場を感じる。</p> <p>介護保険制度では、特別養護老人ホームに入る際は、その施設のケアマネジャーに担当を引き継ぐ仕組みとなっている。</p> <p>小規模多機能型居宅介護事業所と看護小規模多機能型居宅介護事業所についても、施設サービスの考え方と同様に、その事業所に所属するケアマネジャーに引き継ぐ仕組みとなっている。</p> <p>馬場委員のご指摘のとおり、これまで築いてきた関係性が無くなってしまうという部分ではマイナスであると捉えており、過去にこのサービスがなかなか浸透しなかった要因の一つがそこにあったと認識している。しかしながら、制度上ケアマネジャーを変えることとなっている理由としては、小規模多機能型居宅介護と看護小規模多機能型居宅介護は、他のサービスと比較して少し特殊な仕組みになっているため、そのサービスに精通したケアマネジャーがプランを作成することで、より効果的な利用方法を提案できるという利点がある。市民の方には分かりにくい部分もあるため、引き続き事業者と連携しながら、制度の理解に努めていきたい。</p>
馬場委員	<p>野田橋の近くにグループホームというと認知症専門の施設があるが、ずっと何年も雨戸が閉まったままである。ずっと利用されないのはもったいない。今、短期記憶障害など認知機能低下がみられる方が増えきている。そういう中で、こういった施設を利用し、家族の方も余裕ある生活を送れるようにしてほしいと思う。本施設の現状について分かれば伺いたい。</p>
事務局	<p>ご指摘の施設は、隣接する敷地の中に地域密着型特別養護老人ホームと、過去に経営していたグループホームとデイサービスの建物がある。</p> <p>現在運営しているのは地域密着型特別養護老人ホームのみで、その他のサービスについては廃止され、その後利用されてない状況が続いている。過去には、当該法人から施設の有効活用について相談を受けたこともあったが、立地環境などから、話がなかなか進まないとのことであった。</p>
玉川委員	<p>基準緩和型の訪問および通所サービスの実施に向けた協議について、もう少し詳しい内容を伺いたい。</p>
事務局	<p>当市は、近隣他市と比較して総合事業のサービスの種類が少ない状況である。他自治体の好事例を参考にしながら、引き続き関係者の方々と協議し取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>(その他、意見なし。)</p>
保科会長	<p>(2) 日常生活圏域ニーズ調査および在宅介護実態調査からみる現状 事務局から説明を。</p>
事務局	<p>(資料2「日常生活圏域ニーズ調査および在宅介護実態調査からみる現状」を説明。)</p>
峯委員	<p>この調査の対象者数は適切か。市内高齢者の1割弱くらいの調査結果をもとに、全体を予測して計画を策定することは妥当であるか伺いたい。</p>
事務局	<p>前回の調査は全数調査であったため、今回よりも多くのサンプル数をとっているが、今年度国から示された通知では、一つの分析対象ごとにサンプル数を最低でも400はとるよう通知されている。国の指針に基づいて考えると、サンプル数は十分に取れていると考えている。</p>

峯委員	今回の有効回答者数は1,676とあるが、前回は9,056となっており大幅な差が生じている。何か理由があるのか伺いたい。
事務局	前回の調査は全数調査として、対象者全員にアンケートを行った。そのうち回答があったのが9,056ということである。今回の調査では、対象者を無作為抽出により3,000人とし、回答数が1,676ということである。このサンプル数で妥当なのかという点については、統計学的にもおおよその傾向をつかむには十分なサンプル数であると考えている。
秦委員	人生の終末について、自ら希望する人生の最期を送ることができるよう、終末期についての理解を深めていくため続き啓発活動を推進する必要だとあるが、市として具体的にどのような啓発活動をするのか伺いたい。
事務局	<p>当市ではエンディングノートというものを作成し、希望する方に配布するなど周知を図っている。そのノートは、ご自身のもしもの時のことや財産のこと、葬儀のことなどが書けるように構成されており、繰り返し見直すことで自身の考えがまとめられるとともに、ご家族の方々にご意向を伝えることができるというものである。</p> <p>また、最近特に進めているのがいわゆる人生会議というものである。医師が講師となり、どんな最期を迎えたいか、延命治療の希望など、膝を突き合わせながら対話できる場を設けている。このような機会をきっかけとして、ご家族とその想いを共有していただければと考えている。</p> <p>(その他、意見なし。)</p>
保科会長	(3) 吉川市高齢福祉サービスの見直しについて 事務局から説明を
事務局	(資料3「吉川市高齢福祉サービスの見直し」を説明。)
小林部長	<p>今時点で、それぞれのサービスについてどうするかということではなく、今後こういった視点から見直しを行いたいという趣旨をご理解いただくとともに、サービスの概要を委員の皆さまに示すものである。</p> <p>今後については、それぞれのサービスを各視点に基づき検討し、方向性の案を委員皆さんにお示しするので、その際に改めてご意見をいただきたい。</p>
保科会長	具体的にはどのような点を重視して公平性を担保するのか伺いたい。
小林部長	<p>行政サービスは、皆様に納めていただく税金が原資としてサービスを提供することになる。そのため、サービスの利益を受けない方にも理解していただける内容でなければならない。その点を説明できるか、ご理解いただけるかという視点が公平性という観点では大事だと思っている。そのような視点で公平性ということを書かせていただいたものである。</p> <p>(その他、意見なし。)</p>
保科会長	本日の議事については、以上で終了とする。
事務局	<p>3 その他 今後のスケジュールについて説明</p> <p>4 閉会</p>

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和5年7月19日

署名委員 自 署

署名委員 自 署